

FirstGlobal メッセージ

siesta

2015.2月号 vol.141

*シエスタとは、スペイン語で『昼寝』の意味です。

リラックスしながらお読み下さい。

発行元：〒540-0012

大阪府中央区谷町1-6-4

天満橋八千代ビル10階

(株)ファーストグローバルコンサルティング

代表取締役

戦略人事コンサルタント 品川典久

TEL 06-6910-3007 FAX 06-6910-3008

Email shinagawa@1gc.jp

URL <http://www.1gc.jp>

今月のトピックス

エスカレーター

12月9日付けの日本経済新聞の夕刊に「エスカレーター、関西なぜ右立ち」という記事がありました。記事の内容はご存知のように関東をはじめ、全国的には「左立ち」が主流ですが、関西だけ「右立ち」です。たまに上京した際、観察していると、東京・名古屋はもちろん「左立ち」、京都は「右立ち」と「左立ち」が混在していますが、どちらかという面白いことに「左」が多いように感じます。関西の「右立ち」の由来は、阪急電鉄の「お歩きになる方のために左側をお空け下さい。」というアナウンスがきっかけのことです。それが定着したのは大阪万博がきっかけであったという説もありますが、定かではありません。かく言う私も、以前はエスカレーター上で片側を空けずに堂々と立ち止まっている人が目の前にいて、たまたま自分が急いでいるときなどはイライラし、「普通、片側を空けるのが常識やろ」という意識があったように思います。仕事上でもプライベートでも、ご相談を受けて相手の話を聞いている際、よく「だってそれが常識（または普通）じゃないですか？」というフレーズをよく聞きます。私の母もよく言います、おとなしく耳を傾けていますが、「常識」というフレームを被せて近視眼的にお考えになっているように見える方が多いと感じるようになったのも、自身の「変化」のひとつなのかもしれません。「アイツはなんぼ言うてもアカン!!」このフレーズもよく耳にします。おそらくそうなのでしょう。ただ、本当に何も解決する方法はないのか？本当に何とかなる手段はないのか？おかげさまで独立して10年が過ぎましたが、以前と比べると「常識」というフレームに苦しまなくなったように感じます。現在の仕事をしていて、相反する意見をいただいたり、いわゆる「合わない」人がいらっしゃっても、決めつけをしたり、断定したりすることは以前よりは和らいだ気がします、全然とまではいきませんが。期待していることができない、できなかったような場合、できない、できなかったその人なりの理由がある、と思えるようになりました。

< next >

おけましておめでとうございます。
今年もよろしくお願ひ申し上げます。